筑波海軍航空隊跡（笠間市旭町地内）

号令台

筑波海軍航空隊司令部（現　県立友部病院管理棟）

記念碑

戦前、赤トンボと零戦の飛行場

筑波海軍航空隊は、一九三四（昭和9）年、霞ヶ浦海軍航空隊（阿見町）の分遣隊として発足し、昭和13年に独立して、筑波海軍航空隊となりました。発足当初は、九三式陸上中間練習機（赤トンボと呼ばれた複葉機）を主とした操縦訓練でしたが、太平洋戦争が始まり、戦局が日本に厳しくなってくると、零戦（れいせん・ゼロせん）・紫電などの戦闘機が配備され、実践的な猛訓練が続きました。

昭和19年秋以降、海軍に神風特別攻撃隊が組織されると、筑波空からもフィリピン戦線に25名の特攻隊員が投入され、13名の隊員が、さらに、同20年の沖縄戦では、60名の隊員が貴い命を落としました。筑波空の特攻隊員は、大学を卒業したばかりの予備学生が多数を占めていました。

現在の県立友部病院一帯が筑波航空隊の跡地です。管理棟が司令部でした。隊門、グラウンドや号令台、桜、中庭は当時のままです。昭和13年建立と思われる供養碑（当時司令古瀬貴季中佐の揮毫）、地下戦闘指揮所、滑走路なども残っています。

平成10年6月、筑波海軍隊記念碑が、航空隊の生存者や遺族によって、旭町359の橋本二朗氏敷地内に建立されました。碑には、ここで散った人々の慰霊と恒久平和への願いが込められています。

終戦から62年、市内にも戦争の傷跡や遺跡がたくさんあります。平和への新たな願いを込めて、航空隊遺跡を探訪してみませんか。

特別展『筑波海軍航空隊展―平和への新たな願い』

◆期日　8月1日（水）～8月31日（金）

◆場所　友部公民館　1階ロビー

◆展示内容　特攻隊員の遺書・手紙・遺品・寄せ書き・写真・什器など

◆歴史学習講座　8月18日（土）午後1時30分～

◆問合せ　友部公民館　☎0296（77）7533

人口と世帯数　7.1現在

●人口	80,694人	（－ 29）
男	39,483人	（－ 16）
女	41,211人	（－ 13）
●世帯数	27,319世帯	（＋ 35）

○広報かさまに掲載されているあなたの写真を差し上げます。問合せは秘書課（内線225）まで。

PRINTED WITH SOY INK

R100 古紙パルプ配合率100％再生紙を使用

○市ホームページモバイル版では、行政・災害などのさまざまな情報をお届けしています。
アドレス
http://www.city.kasama.lg.jp/mobile/